

授業科目	保育実習 I				単位	4		
履 修	選択	関連資格	保育士		ナンバリング	WE31625J		
開講年次	3年	開講時期	通年	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP2-1 DP2-2 DP3-1 DP3-2 DP4-1 DP4-2 DP4-3 DP5-1 DP5-2			
担当教員	上村 眞生、山根 正夫、文屋 典子、金谷 めぐみ							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実務家教員として、保育実習指導1における、実習前指導、実習中指導、実習後指導と一体的に構成される実習について、指導・教授を行う。</li> <li>とリンクして実施する。</li> <li>・児童福祉施設で提供されている保育、療育およびその機能を現場での実践体験を通して理解する。</li> <li>・実習期間中は、教員の巡回訪問では個別指導を行うと共に、実習先の指導者との連携・強化を図る。</li> <li>・実習後学習として、教員による実習後のスーパービジョン及び実習での学びを共有するための報告会を行う。</li> </ul>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する</li> <li>2 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について理解している</li> <li>3 保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務・役割について実践的に学ぶ</li> <li>4 知識・技能と、実践を体系的に結びつけて理解している</li> <li>5 保育所以外の児童福祉施設の役割、機能等について実践現場での保育士の職務役割について実践的に学ぶ</li> </ol>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	0	0	50	50	100	
知識・理解 (DP1-1)					50	50	100	
知識・理解 (DP1-2)					50	50	100	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)					50	50	100	
思考・判断 (DP2-2)					50	50	100	
関心・意欲 (DP3-1)					50	50	100	
関心・意欲 (DP3-2)					50	50	100	
態度 (DP4-1)					50	50	100	
態度 (DP4-2)					50	50	100	
態度 (DP4-3)					50	50	100	
技能・表現 (DP5-1)					50	50	100	
技能・表現 (DP5-2)					50	50	100	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
1 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践するために、保育計画を立案することができる				1 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する				
2 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について自分の言葉で説明できる				2 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について理解している				
3 保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について知り、積極的に身				3 保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務・役割について実践的に学ぶ				

につけようとする 4 知識・技能と、実践を体系的に結びつけようとする姿がみられる 5 保育所以外の児童福祉施設の役割、機能等について実践現場での体験を通して理解した内容を自分の言葉で説明できる	4 知識・技能と、実践を体系的に結びつけて理解している 5 保育所以外の児童福祉施設の役割、機能等について実践現場での保育士の職務役割について実践的に学ぶ
--	--

授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	実習指導1までの学習に加え、10日間の実習を通して以下の内容を総合的に学習する。 ・実習施設について理解する。 ・保育の一日の流れを理解し、参加する。 ・養護の一日の流れを理解し、参加する。 ・子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。 ・保育計画・指導計画を理解する。・援助計画を理解する。 ・生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。 ・生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する。 ・職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 ・記録や保護者とのコミュニケーションなどを	実習	・事前学習を行い、実習で必要となる知識と技術について確認しておく ・実習日誌へ毎日の実習内容を記入し、指導者から指導を受ける	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				

13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	保育実習指導 1 での事前学習内容を振り返り、保育士に求められる知識と技術を身につけて実習に臨みましょう 保育所保育指針解説書、全国保育士会倫理綱領、保育実習マニュアルについては熟読しておくこと			
テキスト	保育実習マニュアル 西南女学院大学保健福祉学部福祉学科子ども家庭福祉コース			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所保育指針解説書 厚生労働省</li> <li>・全国保育士会倫理綱領 全国保育士会</li> <li>・保育士のための福祉施設実習ハンドブック 小野澤昇・田中利則 編著 ミネルヴァ書房</li> </ul>			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	実習課題を深める上でも実習関連文献の学習、個別の見学学習やボランティア学習を推奨します。 実習中の気づきや学びはメモに残しておきましょう。 事前学習ファイルを活用して、考察を深めましょう。			

達成度評価に関するコメント	レポート外の提出物(実習日誌の記述)による評価 50%、 その他(実習先からの評価)による評価 50%で評価します
---------------	--